

月刊

【環境・省エネ情報誌】

HIRAIWA 省エネNEWS

2020年 4月号

平岩建設株式会社

エアコンプレッサ “トラブル対策特集！”



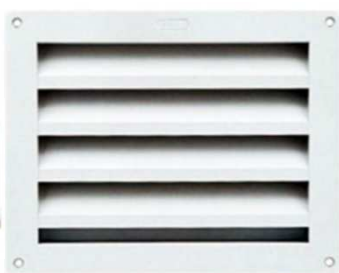
～コンプレッサの最適な使用環境を考える！～

このようなお困りごとありませんか!?



塵
埃
ゴミ

吸い込み口のフィルタに
埃、塵、ごみが溜まる・・・



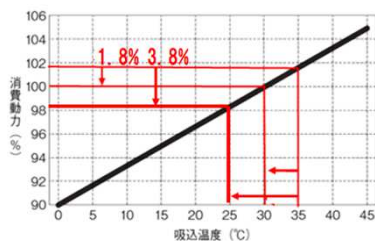
必要な給気が
足りていない・・・



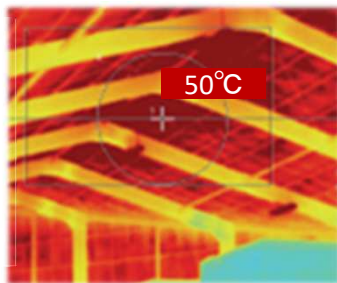
排気ダクトが接続されて
いなくて、熱がこもる・・・



排気ダクトに断熱が
できていない・・・



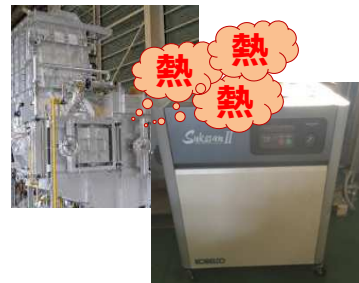
夏は吸い込み温度が
上がり、増エネになる・・・



夏は室内が45℃を
越えて、機器が止まる・・・



コンプレッサ室がなく、
温度管理ができない・・・



工場内にコンプレッサを
設置している・・・

裏面でコンプレッサの“正しい使用環境”をチェックしましょう!

裏面へ
GO!

平岩建設株式会社

TEL:04-2923-2203 FAX:04-2923-2212

製造業の省エネ・コスト削減のことならお任せください!

平岩建設のHPは↓↓からチェック

「埼玉県 平岩建設」で検索!

<http://www.hiraiwa.co.jp/>

<担当>
荒井

<メールアドレス>
eigy@hiraiwa.co.jp



コンプレッサの使用環境をチェック！

今お使いのコンプレッサの使用環境は大丈夫ですか？

チェックシートで自己診断してみてください (□の中にチェックを入れてみてください)

チェック	設置環境	備考・理由
<input type="checkbox"/>	コンプレッサ専用室を設置している	熱源やオイルミスト・粉塵が出る装置のある現場に設置しない
<input type="checkbox"/>	周囲温度は0℃以上 (冬期)	ドレン凍結により圧縮機各部に作動不良が発生する
<input type="checkbox"/>	周囲温度は40℃以下 (夏期)	ベアリンググリスの劣化やピストンリングの摩耗を早め、 寿命低下や破損事故の原因となる 周囲温度45℃以上で異常警報がなり、強制停止する
<input type="checkbox"/>	天井は本体から1.5m以上高い	導入した外気とコンプレッサから排出された高温の排気と混合される前に熱い空気を吸い込む
<input type="checkbox"/>	コンプレッサ間は1m以上の間隔がある	
<input type="checkbox"/>	換気扇が高い位置にあり、室内の給気口は本体の吸い込み口側の低い位置にある	室内の給気口から、換気扇までの空気の流れを作り、コンプレッサ 廃熱 (エアドライヤ廃熱含む) を排気することができる
<input type="checkbox"/>	コンプレッサ室の給気口から排気口までの空気の流れの途中にコンプレッサがある	
<input type="checkbox"/>	排気ダクトは断熱あるいは遮熱している	排気ダクトからの放熱で室内の温度上昇を招く
<input type="checkbox"/>	湿度の低い場所である	雨水がかかったり、湿気の多い場所 (湿度85%以上) では、 漏電や火災事故を起こす危険がある
<input type="checkbox"/>		空気中に含まれる水分が多いとドレンとして凝縮し機外に排出され、 圧縮空気の量が減少する
<input type="checkbox"/>	近くに爆発性ガス・引火性ガスがない	圧縮の行程で爆発や引火を引き起こす原因となる
<input type="checkbox"/>	近くに腐食性ガスがない	コンプレッサの寿命低下の原因となる
<input type="checkbox"/>	粉塵・ゴミ・塵・埃・オイルミストがない	鉄粉・研磨粉・木屑などを吸い込むと、吸い込み口フィルタの目詰まりによる性能低下や圧縮機内部の異常摩耗による破損事故の原因となる
<input type="checkbox"/>	床が水平で基礎がしっかりしている	設置が不安定な場合、異常振動や異音が発生する
<input type="checkbox"/>	ダクトの一部は取り外しできる	ダクト内の清掃、本体の移動を考慮する
<input type="checkbox"/>	エアドライヤの廃熱は強制換気しない	過冷却となり内部のドレン水の凍結の原因となる
<input type="checkbox"/>	負圧にしない	負圧になると換気扇の前後に差圧が発生し、設定通りの換気量が得られない
<input type="checkbox"/>	全体換気の場合、コンプレッサ室の必要給気量 = 必要換気量 + 吐出し空気量 必要換気量 = (据付台数 × 1台あたりの発生熱量MJ/h) / 0.00126 × ΔT × 60 (※許容温度差は一般的に5℃程度)	

すべてにチェックが付かなかつた方やコンプレッサのトラブルがある方、
このままFAXください!すぐに現場直行します!

◆◆◆ お客様お問い合わせ記入欄 ◆◆◆

今回の記事内容に関しまして、ご質問・ご不明な点などございましたら
下記ご記入の上、FAXして頂くか、電話にてお問い合わせ下さい。

- コンプレッサの使用環境について相談したい!
- 現場を見て提案してほしい!

お名前
 貴社名
 ご住所 〒
 電話番号

平岩建設のHPはコチラから
<http://www.hiraiwa.co.jp/>

TEL:04-2923-2203 FAX:04-2923-2212

〒359-1188埼玉県所沢市南住吉8-19 担当:荒井 Email: eigyou@hiraiwa.co.jp